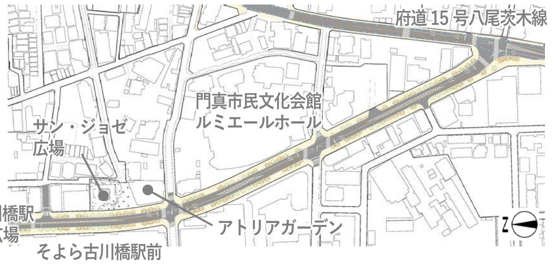
古川橋駅南広場等再編プロジェクト基本計画　Ⅱ市道古川橋駅桑才線編～概要版～

01　現況及び課題とポテンシャルの整理

市道古川橋駅桑才線の全線（市道末広東西1号線の古川橋駅南広場接続部分から府道15号八尾茨木線までの全長約460m）を計画範囲とする。


府道15号八尾茨木線
門真市民文化会館
ルミエールホール
サン・ジョゼ
広場
至 古川橋駅
南広場
アトリアガーデン
そよら古川橋駅前

課題

- 歩道における自転車の交通量が多く、歩行者の安全が確保できていない
- 車道の駅に近い区間では、禁止されている自動車の駐車や長時間の停車等のマナー違反が散見され、自転車が車道を安全に通行できない
- ケヤキ並木はムクドリによる鳥害が発生し、対策として実施された強剪定等により樹勢が衰退。根上がりによる舗装の持ち上がり等が生じている
- 歩道幅の約 1/3 は迷惑駐輪対策で設置された駐輪場と立ち上がり植桝が占めており、交通量も多いため、人が滞留する余地が極めて少ない

歩行者のすぐそばを自転車が通過

樹勢が衰退したケヤキ

ラブリータウン 古川橋イルミネーション

機会とポテンシャル

- 駅北側での旧第一中学校跡地活用事業により、周辺住民や来街者の増加が見込まれる
- 特定土地区画整理事業による整った道路基盤
- ケヤキ並木は市内でも希少なみどり豊かな街路空間で古川橋駅南側のまちのシンボルとなっており、愛着を持つ市民が多い
- 京阪古川橋駅方面への主要動線となっているため、歩行者・自転車の通行量が多い
- 地域団体による、今後も生かしたい活用状況・取組がある（イルミネーション・イベント等）

02　社会実験と交通量調査

1　社会実験

桑才線の車道の両脇に自転車レーンを設置。併せて、歩道に滞留空間やブース出店、路面店のテラス席を設けた

<車道への自転車レーンの設置&歩道の押しチャリルールの適用>

歩道を押しチャリする様子

自転車レーンを走行する様子

<歩道空間の活用>

滞留空間の設置

ブース出店

<沿道店舗のテラス席設置>

パジェロ前テラス席

≪効果検証結果≫

- ●テラス席は新たなまちの風景を創出し、評価や今後に向けた期待が集まった
- ●車道に自転車レーンを設置することへの評価や今後に向けた期待が集まった
- ●ブース出店により、商業ニーズが高いことがわかった
- ●滞留空間の設置について、期待が高いことがわかった

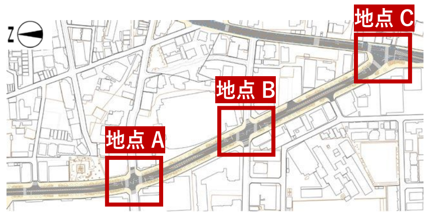
2　交通量調査

下図の A～C 地点の右折専用レーンの廃止に向け、交通量調査を下表の通り実施。

交差点需要率を算定し右折専用レーンを廃止した場合の交差点需要率のシミュレーション、滞留長・渋滞長の調査を実施し検討

▶地点 A・B は右折レーン廃止の影響はないといえる。地点 C は一時的に渋滞の発生が懸念されるが、右折専用レーン廃止の影響はないといえる

▶整備後は右折専用レーンを設置しない方向性で関係先と協議を進める



03　整備コンセプト

遊びと奏での“PLAY”アベニュー

～通過する場所から、ゆったりとこのまちを感じられる場所への転換～

PLAYFUL（遊び心のある）なまちを目指し、歩行者・自転車どちらも安全に過ごせる環境をつくり、まちのシンボルとなっているケヤキ並木を借景とした居心地よく滞在性の高い、使いたくなる“PLAY”アベニューを目指す。

04　整備方針と実現に向けた方策

整備方針1　**歩行者も自転車も安全に通行できる道路空間づくり**

- 方策①　車道への自転車通行空間の導入と歩道の押しチャリ化

整備方針2　**居心地よく滞在性の高い空間づくり**

- 方策①　ニーズに対応し柔軟に活用できる道路空間の形成
- 方策②　ベンチ等の滞留空間の設置

整備方針3　**まちのシンボルとなるケヤキ並木の空間・景観形成**

- 方策①　ケヤキ並木の魅力化
- 方策②　ケヤキ並木を中心とした空間デザイン

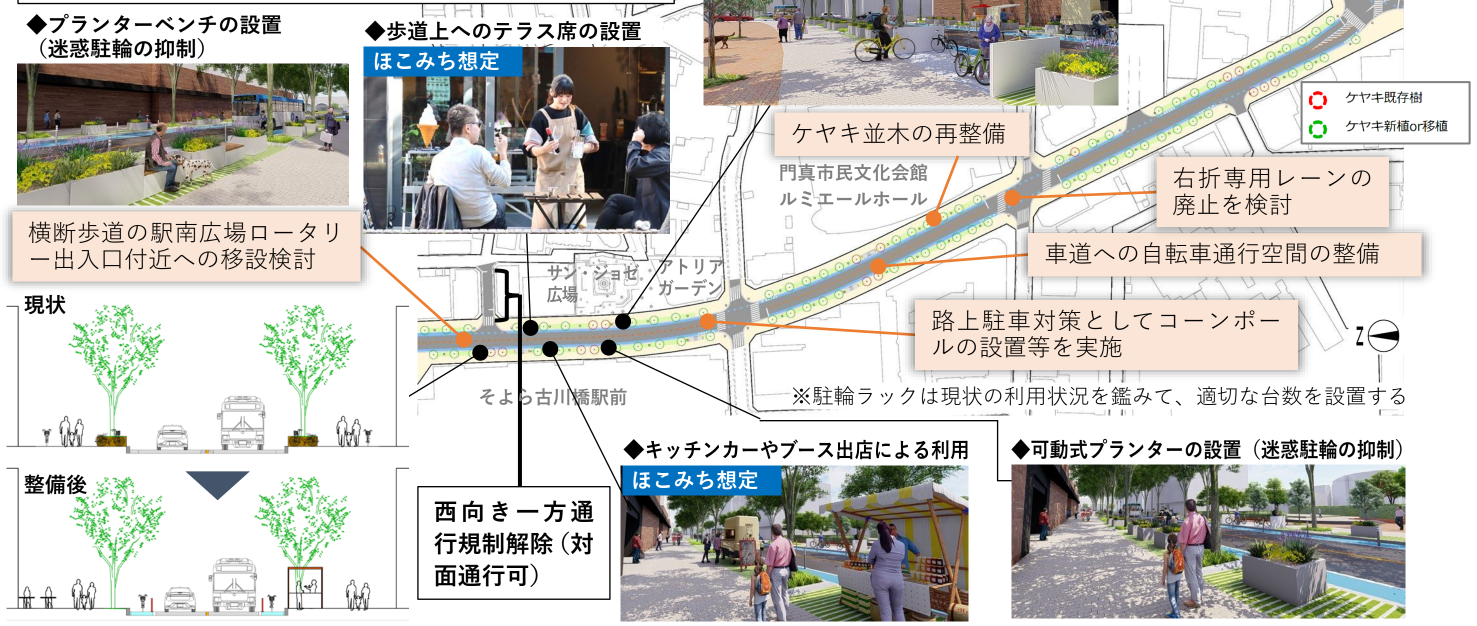
イメージ：自転車専用通行帯

社会実験：歩道でのブース出店

05　整備計画と活用イメージ

歩行者と自転車の分離のための道路断面の変更

歩行者と自転車の分離をはかる。十分な歩行空間を確保しながら、滞在性を向上させるファニチャーの設置やテラス席等、にぎわいづくり等に活用できる空間を確保する。


◆プランターベンチの設置（迷惑駐輪の抑制）
◆歩道上へのテラス席の設置
ほこみち想定
◆駐輪場と自転車レーンから歩道への上り口を一体的に整備
ケヤキ既存樹
ケヤキ新植or移植
門真市民文化会館
ルミエールホール
サン・ジョゼ
広場
アトリア
ガーデン
そよら古川橋駅前
現状
整備後
◆キッチンカーやブース出店による利用
ほこみち想定
◆可動式プランターの設置（迷惑駐輪の抑制）

歩道部の自転車通行化の廃止（全区間）を検討

ケヤキ並木の再整備

右折専用レーンの廃止を検討

車道への自転車通行空間の整備

横断歩道の駅南広場ロータリー出入口付近への移設検討

路上駐車対策としてコーンポールの設置等を実施

西向き一方通行規制解除（対面通行可）

※駐輪ラックは現状の利用状況を鑑みて、適切な台数を設置する

06　整備スケジュール

令和5年5月に「古川橋駅周辺地区まちなかウォーカブル推進基本構想」を策定。同構想に基づき、令和6年11月に社会実験「PLAY FURUKAWABASHI Vol. 2」を実施した。その結果を受け、本編をとりまとめた。今後は、エリアのステークホルダーとも連携し、地域ニーズ等を確認しながら、実施設計・工事を目指す。

令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度以降
「古川橋駅周辺地区まちなかウォーカブル推進基本構想」の策定		社会実験「PLAY FURUKAWABASHI Vol. 2」の実施	「古川橋駅南広場等再編 PJ 基本計画（市道古川橋駅桑才編）」の策定※	エリアのステークホルダーとも連携し、地域ニーズ等を確認しながら、実施設計・工事を目指す 実施設計・工事（予定）

※古川橋駅周辺地区まちなかウォーカブル推進基本構想に示された4つのプロジェクトと合わせて策定